

山形県地域密着型サービス自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

※項目番号26 馴染みながらのサービス利用
 項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
 については、小規模多機能型居宅介護事業所のみ記入してください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム まいづる
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	山形県酒田市
記入者名 (管理者)	佐藤光子
記入日	平成20年8月1日

山形県地域密着型サービス自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	【心地良い空間に 笑みと安心を！】を基本理念として掲げ、職員一丸となり取り組んでいる。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	個々の尊厳を常に探りながら、職員間においては情報を共有し安心して穏やかな生活が得られるよう努めている。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	御家族の方には入所時に説明しており、家族会の協力を得ながら理念の浸透に努めている。又地域の皆様に対しては特に説明会等は開催してないが、、日々の買い物や散歩、地域の行事に参加することにより交流を深め、地域からも理解が得られるように努めている。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	近隣の方から自宅にお招きをいただき、ツツジや菊の四季折々の花を観賞させていただき、茶菓のおもてなしをしていただいております。また収穫した野菜を持参していただいたり、隣の方とはすっかり顔なじみとなり気軽に声をかけてもらえるようになりましたが、施設の中に入って交流することについては多少ためらいがあるようである。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地区の子供会が実施している月1回の廃品回収に協力したり、地区の清掃や、子供たちの通学時における立哨、及び地域祭等の行事等には出かけるが、自治会、老人会等には参加を希望する方が少ない。それでも近所の保育園に通園する親子からは、毎日の行き帰りに手を振ってあいさつを交わすなど交流は徐々に深まっていると思われる。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地区婦人部に協力し交通安全の街頭指導や、地域住民の車いす使用者の通院時の送迎等できることから始めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価や自己評価の結果を職員に配布し、より安全で安心してその人らしい生活を支える事が出来るのか、個々に担当を持ってもらい関わりを深めながらの対応を心掛けている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者を代表する委員の方の意見を聞くことは難しいが、代弁者としての家族会代表の方や地区民生委員の方からは多くの意見をいただき、またその方々の協力を得ながらサービスの向上に努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	酒田市介護サービス連絡協議会の研修を介し、他施設の意見など情報収集し参考にしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は受講しているが、活用する事例が無く経過している。機会があれば、研修参加や施設内研修などを検討したい。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	平成18年介護支援専門員の現任研修にて管理者は受講しており、利用者が安全に安心して暮らせるよう、状況や状態把握に努めている。 職員は虐待してるつもりがなくとも、利用者が虐待されたと受け止めるケースもあるので、その対応についても注意するよう心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるよう配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県グループホーム協会が実施している交換研修を活用し、他施設での実践研修に努める他、他の研修についても極力参加するように心掛けている。 又、業務を通し随時実践を踏まえながら取り組んでいる。	○	職員を育てる取り組みについては、左記のような努力をしているとはいえ、業務遂行の合間に研修時間を割くことは簡単なことではなく、業務遂行の中で研修できるように創意工夫をしなければならないと考えている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	酒田市介護サービス連絡協議会の研修を介し、他施設の意見など情報収集し参考にしながら実施している。	○	グループホーム協会を通じての同業者との交流は行っているが、現実的に同業者は商売敵でもあり、どこまで忠実な情報交換をなし得るかは疑問も感じられる。そのためにもお互いの信頼関係を深める必要があるのではと思うのであるが、その対策は…？
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の要望をすべて聞き入れてくれるわけではないが、職員の休憩室を床から畳敷きに改造してくれたり、財政的に可能な限りにおいては要望を聞き入れてもらっている。 だが、利用者のダメージ解消と職員のストレス解消が相反する場合はその対応策に窮し、言葉による職員への慰めしかできないのも事実である。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は毎日の様に施設に立ち寄り、職員の勤務状況や健康状態等を把握し、その努力に対しては昇給や賞与に反映させることにより、励みとなるよう取り組んでいる。 資格取得についても同様の対応をすることにより、職員の向上心が育まれるようになっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	現在に至るまでの経過の中で、一番身近な援助者や家族より情報収集行なうと共に、事前面談を通しコミュニケーション心掛け、何を思い・不安な要因は何か・どんな事を考えどの様な対応を望んでいるのか等を、検索しながら信頼関係を築いて行ける様努力をしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期相談時から、家族が本当に困っている事や利用者の状況を安心して伝えられる様雰囲気作りを心掛け、その後の面接に向け家族の思いを受け止める努力をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族から直接相談を受けた場合は、必要とする支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応も示唆できるが、支援センターからの紹介で入所の方向が決まっている場合は、当施設での可能なサービスについて説明するとともに、先ず必ず必要とする援助内容など、暫定的なプランを踏まえながら対応に当たっている。		
26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩とし敬い、日常生活を共にしながら様々な人生経験をヒントに職員も支えられている、という意識を持って接するように努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者中心に考えると、家族の心情を無視するような要求を強いることもあるが、それでは家族との信頼関係が崩れ、結果的に利用者に対しても適切なサービスが提供できなないので、日常の出来事や困ってしまった事などについても家族の話を聞き入れ、親身になって相談に応じるように努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	先ず職員と家族の信頼を築くことにより、相互の情報を正しく理解し、そのうえで利用者本人と家族の絆の重要性・必要性について語り合い、より良い関係が保てるように努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前の絵教室の友達が面会に来たり、実家のある場所へドライブに行くなど、本人の意思決定を尊重し、なじみの関係が維持出来るよう援助している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は常に中立公平な立場を基本とし、1つ家に暮らす家族として状況を把握しながら、支え合えるよう努めているが、現実には「あちらを立てればこちらが立たず」のケースが多く、その場しのぎの対応にならざるを得ないこともある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	直接本人とのかかわりを持つことは少ないが、家族や担当ケアマネとの連携をとりながら現状把握に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの直接的な訴えは少ないが、できる事やしたいことが必ずあるはず、自分だったらどうして欲しいか等関わりを深め、見抜けるよう努めている。又、本人の意向により美容室や理容に行きたい要望が合った場合は、予約するなどの援助に当たっている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前情報を把握した上で、日常会話等で更に当時の状況を深く聞いたり経過を確認したり何が安心できるのか、現在に至るまでの生活史を把握できるよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その人らしさやいつもと違う状態等を把握し、何かシグナルを発していないか常に把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスにおいて意見を交換し合い、良い案があれば即実行し、上手くいかない場合は再度検討し合う等チームで実施している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しが必要な方でその対応が可能なケースについては見直しを検討するが、重度化及び終末期によりグループホームでの対応が困難となった場合には、家族、関係機関と今後の対応について相談する一方で、暫定的に現状に即した最善策を講じるように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は介護経過と生活記録に分けており、各項目ごとにきずきの点や状況を記入し、それを踏まえながら介護計画の見直しに生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、公民館、図書館、その他公共的施設などの協力を得ながら支援している	毎月、指圧師のボランティアが訪れてくれ、日常会話をしながら指圧して頂いたり、民生委員の指導の下、家庭菜園を一緒に行なうなどしている。又、地区公民館で催される文化祭出向き、展示物を観賞したり、近くにある保育園の運動会へ見学に行ったりしており、今後も地域資源を有効に活用したいと思っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や生活支援上の必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、介護保険外も含めて他のサービスを利用するための支援をしている	これまでに事例は無いが、必要に応じ本人の意向に沿って援助に当たりたいと思っています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	以前独居の方で入居時と退去時に地域包括支援センターと相談しながら支援したことはありましたが、現在は事例がありません。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	予約日を毎月ボードに記入し、通院や受診介助を行い状況の経過を報告したり、相談や確認を行い、健康維持に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者が安心して生活できる場であり共に家族として支え合いながら、個々のプライドやプライバシーを侵す事の無いよう配慮し、皆で笑い合えるよう努めている。 もし心ならずもそのような言動があった場合は、職員全員で話し合い注意し合うよう心がけている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日頃の日常生活状況を理解した上で、その場面ごとに能力が発揮出来るよう援助したり、一人一人のレベルに応じた選択肢を提供するなどして自己決定の支援をしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の個性や能力に応じ、手は出さず・口は出さず・目を離さずを基本とし、援助している。又、希望がある場合は、可能な限り浴える様努力している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	生活にメリハリを持っていただくためにも寝食分離に心がけ、身だしなみについても関心を抱くように配慮している。 理美容についても希望する店でできるように、都合の良い時間を電話で予約し出かけている。その他の方も、毎月1回ボランティアで来る理容師からいただいています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下準備や味噌汁の盛り付け等、可能な方に手伝ってもらっています。利用者の好みを取り入れながらもバランスを考えた食事作りに努めていますが、偏食のある方でも本人を了解を得ながら、極力皆と同じ食事ができるようにしています。時には利用者から昔の料理を教わって挑戦することもあります。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	他人に迷惑を及ぼさない範囲で、かつ定められた場所(防災上)でのアルコールや喫煙は自由であり制限をしていないが、日常的にたしなまれる方は少なく、行事や外出の際に少量飲んで雰囲気を楽しんでいるようです。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	水分摂取状況を勘案しながら時間でトイレ誘導を行い、出来ない部分を援助し、汚染を防ぎ気持ち良く過ごせる様努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	事故防止の観点から制限を設けざるを得ない面はあるが、以前よりは改善が図られ、本人の体調等を考慮しながら、極力希望に沿うように努力している。 全体的なバランスを考えながらの定期的な入浴と、本人の希望及び状態を勘案しながらの随時入浴を組み合わせて対応しています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の要望に答え、照明の調節や空調管理等行い好みの条件整備に努めながら安眠休息を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物を一緒にたたんだり干したり、周囲の花の草取りや水掛け菜園の収穫等、昔の事を聞きながら一緒に楽しんで出来る様支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時、個々のがま口を用意しており自分で食べたい物を注文し、職員見守りの下自分で判断してもらい、困難な様子の場合助言しながら使えるよう援助している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	随時利用者の希望に応じ、薬局に行きたい等の要望に答え、予定時間をつくり援助行なっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食を兼ねた紅葉狩りや美術館へ人形展を観賞するなど、外出の機会を計画し実施している。又、その日の天候により海や鳥海山を見に出かけたり、ドライブしたりして、利用者のリフレッシュに努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書くケースは無いが、電話をかけたいとの希望が合った場合は、話したい相手に電話をかけてあげたり、かけたい相手に通じない場合は、内線電話を利用して、隣接する施設の職員が話し相手になったりして対応しています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	出迎えてお茶菓子を提供したり、個別に会話出来るよう援助したり、帰際には共に見送りし「また寄ってくださいね」と声掛けしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全確保のためやむを得ず、家族より同意書にサインを頂き実施した事例はある。しかし、実地指導で「これは拘束ではなく、安全確保ですね」と言われた。拘束は基本的にせず随時の見守りで対応している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる	外に出たがる場合は、行動を共にし施設周囲を一回りして戻るなど鍵を掛けないよう工夫しているが、昼休みや夜間の場合は、安全上施錠せざるを得ない時もある。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	随時の見守りで、所在確認と把握に努め、安全確認行なっているが、夜間の場合は、夜勤者が一人で利用者9人を見守ることは不可能なので、利用者の居室での動静が察知できるように、鈴によるセンサーとしての工夫をしている。これはプライバシーの侵害や精神的拘束にはならないのか？		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤や薬品などは扉の付いている棚にしまっているが、普通の家庭と同様の保管程度なので、その時の利用者の状態に応じ危険を察知した場合は随時対応し、安全確保に努めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルを準備しており、状態に応じ早めの対応を心掛けたい。又、個々の状態において危険で安全確保を要する場合等は、ケアプランに盛り込み、事故防止・安全確保に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	一応マニュアルもあり職員にも周知徹底を図ってはいるが、予測しえない事態も多く発生している。幸いにも事故に至らなかったヒヤリハットの事例を検証し、事故防止や対応策に努めている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	施設の斜め後ろに地区公会堂があり、災害時などの避難場所として使用できるようにお願いをしているが、	○	地域の方々による支援態勢を組織化し、具体的な対応策を検討する必要がある。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時の説明の際に、転倒や思いもよらぬ事故の危険性があることを説明している。又、事故やヒヤリ・ハット発生時は早めに家族に状況説明を行い、回避策を検討し報告している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	通常と違う状態やこれまで出来ている事が出来なかつたりした場合は、何かのシグナルを発している事が多く職員間での情報を共有し合い、体調変化などの早期発見と対応に当たれるよう努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の疾病や服薬情報を個人ファイルに表示しており、最近の状況など把握した上、起こりうる症状など職員に報告し、服薬確認と経過観察など指導している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便を確認した場合は必ず記録し、排便チェック表を用い、定期で排便ができるように、医師の指示の下コントロールしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを促し必ず実施している。磨き残しの確認行ないながら、できない方には職員と一緒に励行するよう努めている。 対応できないケースについては、家族と相談し、専門の歯科医の指導を仰ぎ対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月体重測定の結果を見ながら、増加傾向ある場合は摂取量を控えめとしたり、水分補給時も本人に飲みたい物を選択してもらい、楽しい雰囲気でも過ごせる様援助している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成しており、動作ごとの手洗いを実施している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は生物使用後は熱湯を掛け、ふきんは毎晩夜勤者がハイター消毒を実施している。新鮮で安全な食材の選別を行い、食中毒等の予防に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の右側に花壇があり花を植えているが、住居変更となったため少しさっぷうけいであり、今後徐々に整備して行きたい。	○	スペースがないのでなかなか難しい面もあるが、以前からの課題でもあるので、何とか工夫を施して、親しみやすく誰もが安心して出入りできるような玄関にしたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手狭ではあるが、共用空間(食堂)からは畠越しに麓の山並みが望め自然豊かな緑がきれいに季節感を表してくれる。又、南北に走る廊下が吹き抜けとなっており天窓より採光が得られ明るく爽やかなイメージがする。この雰囲気を活用し、心地よく穏やかに安心して暮らせる様今後も努めたい。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	供用区間として狭いという事実は歪めないが、部分的にソファを設置したり、畳の部屋には座卓を置き自由に過ごせるよう工夫を凝らし対応している。	○	共用スペースを増築し、一人ひとりの居場所づくりに対したいとは考えているが、財政上の理由から早急の実現は不可能であり、長期的な計画に基づき実現の可能性を検討する必要がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はそれぞれその人のお家でもあり、その人の個性を活かし、居心地の良い居室づくりをするための援助に心がけているが、元々無関心なのか飾ることを好まない性格の方が多いため、全体的にあっさりしているようである。だからと言って職員の好みを押し付けるわけにもいかず、これもその人らしさと受け止めざるを得ない。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室は個々の状態に合わせ、快適に過ごせる様本人の意見を聞きながら空調管理をしており、日中は季節や天候にもよるが、窓を開け気になる臭いや空気よどみがないよう配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの身体機能の状況において、出来る能力は活かしながら当たり前の生活が継続できる様援助している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	常に五感を刺激しながら意欲をそその方向付けを心掛け、喜怒哀楽を共にし支え合い、それぞれの機能が継続維持出来る様援助に当たっている。		
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	駐車場を挟んだ反対側に僅かではあるが畑があり、水掛や収穫等で楽しんだりしている。又、玄関脇のスペースには可愛らしい花が植えてあり、その傍らではガーデンテーブルとチェアを準備し、外気浴を兼ねお茶を飲んだり気分転換に努めている。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者個人の真の幸せとは、本人のわがまを満足させることではないと思います。一緒に生活する他の入居者、ご家族、職員、地域の方とのより良い関係が構築され、みんなが幸せを共有できる社会（地域）づくりがあってこそ個人の幸せもあると信じたい。

しかし認知症の方にこのことをどのように受け止めていただけるのか、自宅に帰りたくても帰れない認知症の方の悲しみや、自宅で一緒に生活できない家族の苦しみを、職員はもちろんのこと、地域の方から理解していただき共有していただくためには何をなすべきなのか分からず、力不足を痛感しております。また、日々問題に遭遇し、失敗し、悩みそして落ち込んだりの連続ですが、それでも失敗を繰り返し、反省を重ねることで学習し、少しずつではありながらも成長しているのも事実です。

失敗を素直に認め、謙虚に反省することが反面私たちの施設の良さでもあり、誇れる唯一のポイントかとも思います。それだけに誠心誠意、精一杯の努力をするしかなく、誰かを指導するなどというおこがましい考えを捨て、皆さんと共に悩み、共に考えていけるのではないかと感じておりますので、皆さんも私たちと一緒に悩んでみませんか。